古里るもいへの提言

留萌市はことし、開基百年という意義ある年を迎えて町づくりは着々と進みます。そこで二世紀への第一歩を踏み出した留萌市の未来に、留萌出身で道内外で活躍されている方から〝古里るもいへの提言〟と題し、ご意見をいただきました。留萌がより大きく伸展するために…

バランスのとれた都市を

毎日新聞社長　**平岡敏男**さん

私が生まれたのは幌糠ですが、育ったのは旭川が主です。

五十数年前の記憶をたよりに一本道を峠下方面へ行くと笹島商店があり、この隣りに昔、私の家があったのです。さらに進むと小、中学校がありましたが、半世紀の間に家が増えたという感じもしませんでしたが、留萌、深川間に立派な道路ができ、ひんぱんに車が通っていました。

訪れたのは秋でしたので、稲刈りの最中でしたが、昔は米ひとつぶもとれなかったのに……と改めて思ったりしたものです。

私は、このことを随筆集に書いたことがあるが、今回開基百年ということで、未来への提言を求められたが、残念ながら私には留萌の現状について深い知識を持ち合わせていないため、提言などできようもありません。

ただ、言いたいことは、都市は大きいばかりが取柄ではない。市民の生活と都市のいろいろな施設や機能とのバランスがとれていることが大切であると思うのです。

私はヨーロッパの美しい都市をたくさん見てきた感想です。

個人に経済能力、ふところぐあいがあるように、市にも財政能力がある。いたずらに背伸びをしてそれを無視すべきではない。

そういうことをしなくても、いい都市、いい市民生活は築きうると思うのです。

明治四十二年留萌市幌糠で生まれる。昭和七年東大経済学部卒、毎日新聞社入社。論説委員、ロンドン支局長、常務取締役、常勤監査役を経て五十一年二月社長就任。（東京在住）

ふところ豊かな町に

札幌医大附属病院院長　**橋場輝芳**さん

私は、政治や経済については、全くの素人ですが、古里留萌についての提言をしてみたいと思います。

留萌の経済基盤は水産加工にあると聞いています。

今問題の二百カイリ問題では、直接の影響はなかったように聞いていますが、いずれにしても経済の豊かさは市の発展につながることでしょうから、市民ぐるみの努力を祈ります。

それから、日本人の寿命が延びていますが、このことは言いかえれば成人病、老人病をかかえた人びとが増加しているということです。

老人医療福祉にゆき届いた、きめのこまかい政治が行なわれ、豊かなまちづくりを提言いたします。

明治四十五年五月生まれ、札幌医科大学附属病院長として多忙。現在増築計画中で五年後には教育研究医療の中核とするため活躍中。（札幌市在住）

港を中心に伸びゆく留萌

誇りうる我が故郷に

版画家　**東谷武美**さん

東京のゴミゴミした中に住んでいると、無性に海が恋しくなります。年に一度はどうしても波打ち際でボーッとしたくなり、東京近辺の海へ足を運びますが、やっぱり留萌のあの深く沈んだ鈍色の海と比べると、何か物足りない気がするのです。

一昨年、私が帰郷した時の留萌は街並みも新しく、妙にこざっぱりして少し淋しい思いがしたものでした。やはり、故郷は自分の育ったままの姿であってほしいと思う反面、もっと発展して大きな町に成長してほしいと思うのは、離れて生活している人間の勝手な願いなのでしょうか。

私に、留萌への提言といわれても、すぐに浮かぶものがありませんが、ただ人と会った時に「生まれはどこですか……」と聞かれた時、誇りをもって「北海道の留萌です。」と答えているつもりです。

東京へ出てから十二年間、この姿勢を変えたことはありません。

今後も同じように「留萌」とくりかえすことでしょう。

昭和二十三年生まれ、東京芸大版画研究室助手、東京女子美大別科研究室講師日本版画協会々員。七月に日動サロンで個展を開いた。（東京在住）

文教・福祉・観光の調和した町に

東京12チャンネル営業部長　**小倉昭夫**さん

留萌を出てから二十五・六年になります。この間数度帰郷していますが、いつもゆっくりする間もなく帰ってきます。

そんな中での私の未来の留萌像を描いてみたいと思います。

その将来像を端的に言いますと文教・観光・福祉の三ツのパターンがミックスされた都市になってほしいと思います。

そのためには、まず交通網の整備にあります。鉄道を早く復線化し、経済交流、人的交流を図るべきと考えます。

即ち企業誘致、短大・大学の誘致には必要な条件と考えます。

また、将来新幹線が完成された場合、北海道の経済力はアップするでしょうし、その場合留萌は、当然道北経済圏ではなく、道央経済圏に直結するものと思います。

それらに対応するためにも交通通信網整備は必要なことです。

また、企業誘致も冬と雪という条件を考えなければなりませんからかなり制限されると思います。

学校誘致もこれらの問題と環境が整備されると、大いに期待できると思うのです。

観光も夏は自然条件があるとしても冬の観光がありません。スキー場、屋内スケート場を作るとか一九八四年には、また札幌オリンピックが開催されるでしょう。

この国際的イベントの中で、何か留萌にできることはないでしょうか。将来計画をする中で、国外国内的なイベントに注意し、これらのイベントに参加することは、マスコミの注目を集めることになると思うからです。そして第三セクターによる実現の方法論も研究しなければなりません。

最後に、故郷留萌が超近代的な都市にならなくとも、文教、観光福祉の充実した都市になることを希望したい。

なつかしい留萌

道議会議員　**中崎昭一**さん

留萌市開基百年、心からお祝いを申し上げます。

小学校、中学校時代を多くの親友たちと楽しく過ごした瀬越の浜高見の山など、故郷の追憶をしみじみと感じています。

私は昭和十八年に海軍に入って以来、北海道各地を勤務して、一昨年道南の七飯町に居を求め、現在は北海道議会議員をさせていただいておりますが、住む地区は違っても同じ道民ですし、北海道発展に尽力してまいりたいと思います。

いつも留萌を訪ねるたびに、町の変化に驚きますが、脈々と流れる留萌人のまちづくりの力強さに胸打つものがあります。

私の故郷、留萌市の発展を心からお祈り申し上げます。

昭和二年生まれ、昭和二十四年北大工学部卒業、函館土木現業所長、四十八年道土木部砂防災害課長で退職、道議会議員当選、水産常任委員（亀田郡七飯町在住）

昭和七年生まれ、仕事は放送番組の企画立案です。北海道に直接ネットはないがHBC、STV、HTB、UHBなどにネットしている。（埼玉県在住）